

Oracle ダンプファイル参照ツール

ARK Dump Viewer

操作・運用マニュアル

2011/09/11

ARKTRAN, INC.

目 次

1. はじめに	3
2. フリー版／トライアルモード機能制限について	4
3. 改定履歴	5
4. インストールとセットアップ	8
5. 概要	9
5. 1. ARK DUMP VIEWER の特徴	9
5. 2. ARK DUMP VIEWER の主な機能	9
6. GUI 版操作	10
6. 1. 起動	10
6. 2. メインウィンドウ	10
6. 3. プログレスバーウィンドウ	13
6. 4. テーブル選択ダイアログ	14
6. 5. 出力カラム選択ダイアログ	15
6. 6. WHERE 条件式ダイアログ	16
6. 7. プロパティダイアログ	18
6. 8. DDL 出力対象選択ダイアログ	18
6. 9. バイナリカラム出力ダイアログ	19
6. 10. SQL 出力ダイアログ	20
6. 11. 動作条件設定ファイル	20
7. コマンドライン版操作	21
7. 1. 使用例	21
7. 2. 引数	22
8. トラブルシューティング	27
9. MAKE 編	28
9. 1. WINDOWS 版	28
9. 2. UNIX/LINUX 版	29
10. アンインストール	30
11. 附録	31
11. 1. エラーメッセージ	31
11. 2. ワーニングメッセージ	33

1. はじめに

このたびは ARK Dump Viewer をご購入いただきまして、誠にありがとうございます。

ARK Dump Viewer は、Oracle データベースのエクスポート機能で出力されたダンプファイルの内容を、データベースを経由せずに直接参照することができるツールです。

ARK Dump Viewer の UNIX/Linux 版は、お客様に make していただき、お客様が製品を継続して利用できることを保証する目的として、ソースコードを公開しています。

ARK Dump Viewer の不具合改修などを目的とした改変の制限はいたしません。営利目的で再頒布を行う場合は別途許諾契約が必要になります。また、お客様で改変されたソースコードについてはサポートの対象外といたします。

このマニュアルは ARK Dump Viewer のインストールから操作方法、UNIX/Linux 版のコンパイル手順までを説明したものです。ARK Dump Viewer を操作する全ての方を対象としています。

ARK Dump Viewer には以下の種類があります。ライセンスにより内容は異なります。

- ・ WINDOWS GUI フリー版
ウィンドウから操作を行います。検索や CSV ファイル変換のみなどの機能は利用できません。
- ・ WINDOWS コマンドラインフリー版
コマンドラインから操作を行います。
テーブルの指定や検索条件の設定はできず、ダンプファイル中の最初のテーブルを全件出力します。
テーブル単位のダンプファイルにご利用いただけます。
- ・ WINDOWS GUI 版
ウィンドウから操作を行います。動作にはライセンスキーファイルが必要であり、キーファイルが存在しない場合はトライアルモードになります。キーファイルには期限付きで全ての機能を利用できる、評価用ライセンスキーが存在します。
- ・ WINDOWS/UNIX/Linux コマンドライン版
コマンドラインから CSV 変換の操作を行います。実行にライセンスキーファイルは不要です。

ARK Dump Viewer のマイナーバージョンアップや、メジャーバージョンアップ版のリリースについては弊社 Web サイトまたは電子メールにてご案内いたします。

<http://www.arktran.com>

info@arktran.com

■Oracle は米国 Oracle Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

■UNIX は米国およびその他の国における The Open Group の登録商標です。

■Microsoft、Windows、Excel は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

■その他、本文中の製品名およびサービス名は、一般に提供元の商標です。

2. フリー版／トライアルモード機能制限について

フリー版では以下の機能が商品版と異なります。

○WindowsGUI 版

- ・ WHERE 条件式を有効にできません。
- ・ 最大出力行数は 65000 固定です。
- ・ CSV 変換のみ、CSV 一括変換、指定プログラム起動の各モードが選択できません。

○Windows コマンドライン版

- ・ COLUMN, GREP, PREVIEW, TABLE, WHERE 引数が無効となります。

本マニュアルで【**フリー版**】と表示している部分が商品版との差分になります。

商品版でキーファイルが読み込めない状態の動作は、以下の機能制限があります。

- ・ 最大出力行数が 50 行までとなります。
- ・ 設定の保存ができなくなります。

3. 改定履歴

プログラム改訂履歴

バージョン	年月日	更新内容
2.9.8.0	2011/09/11	GUI 版でプログラムがダウンすることがある不具合を修正 EXPDP ダンプで 255 以上のカラムの制限を解除 テーブル名、カラム名に日本語が使用されていた場合、エラーが発生する不具合を修正 DATE 型書式変換速度を向上
2.9.7.0	2011/08/24	EXPDP ダンプで 12 個のカラムが存在する場合出力が不正となる不具合を修正 0 で始まる小数点以下の数値の整数部が 0 にならない不具合を修正 ダンプのキャラクタセットが UTF8 の場合、引数 OUT_CHARSET にかかわらず BOM が出力される不具合を修正 引数 BOM を追加 出力可能 CSV レコード長を 8KB から 4MB に拡張 EXPDP ダンプで 255 以上のカラムのテーブルは処理対象外とした
2.9.6.0	2011/07/09	マルチスレッドモードで、前の行の値が混じる不具合を修正
2.9.5.0	2011/07/09	テーブル選択ダイアログでパーティション表の件数が 1 固定であった不具合を修正
2.9.4.0	2011/07/04	EXPDP データベースモードダンプで Oracle 内部管理用の ALTER 文出力が混ざる不具合を修正 ダイアログからの戻り時にメニューが再描画されない不具合を修正
2.9.3.0	2011/06/28	EXPDP ダンプの NULL カラム出力が不正であった不具合を修正
2.9.2.0	2011/06/27	引数 DATE_FORMAT の書式チェックを追加
2.9.1.0	2011/06/26	正常終了時に引数 ERRLOG で指定したファイルがサイズゼロの場合削除する様に修正 異常終了時の CSV ファイルを削除する様に修正 PARFILE に TABLE オプションを指定しても有効とならない不具合を修正
2.9.0.0	2011/06/23	引数 LOG を無効化し、LOG 指定時に CSV 出力されない不具合を修正 引数 MODE=CSV_BATCH で CSV 出力されない不具合を修正 引数 OUT_CHARSET を追加
2.8.2.0	2011/04/10	WHERE 条件式が効かない不具合を修正 小文字でのテーブル名指定が効かない不具合を修正 パラメータファイルを指定するとダウンする不具合を修正 デリミタにタブを指定すると行末にタブが付加される不具合を修正 gcc でコンパイルした場合、起動直後にダウンする不具合を修正 WHERE 条件式で使用可能な SQL 関数に TRIM 関数を追加
2.8.1.0	2011/02/17	EXPDP ダンプのカラム取得不具合修正 カラム名先頭が ID, ID_~ の場合、Excel で読み込むとエラーとなるため、ダブルクォーテーションで囲む処理を追加
2.8.0.0	2010/07/10	パーティション対応 出力カラム選択機能追加 GREP 機能追加 INSERT SQL 出力機能を追加 テーブル選択ダイアログに件数表示を追加
2.7.0.0	2010/06/10	処理速度向上 DDL 出力機能にダイアログを追加し、オブジェクト選択に対応 LOB 出力機能の仕様を変更 DLL 版を廃止
2.6.0.0	2010/05/15	NUMBER 型のマイナス値で下位桁の出力が異常となる不具合を修正
2.5.1.0	2010/02/21	条件式による検索で出力件数が 0 の場合、ワーニングメッセージを追加 表示プログラムにメモ帳を指定した場合、複数テーブルの表示ができなかつ

		た不具合を修正 プロパティ表示のファイルダイアログでキャンセルが指定された場合、元のウィンドウのメニューがロックされたままである不具合を修正
2.5.0.0	2010/02/14	Oracle8i ダンプファイルに対応 ウィンドウへのドラッグアンドドロップに対応 コマンドライン版に引数 PROPERTY=Y を追加
2.4.0.0	2010/02/07	キーワード検索機能を追加 DDL 出力機能を GUI 版メニューに追加 プロパティ表示機能を GUI 版メニューに追加 RedHat Linux で UTF8 キャラクタセットが正しく判定されない不具合を修正 NLS_NCHAR_CHARACTERSET の UTF8 に対応
2.3.1.0	2010/01/12	フリー版の機能制限内容を変更 オンラインヘルプを追加 WHERE 条件式ダイアログに同一テーブル重複チェック機能を追加 CSV 変換、CSV 一括変換モードで処理終了ダイアログを表示する様にした Excel 表示モードで複数テーブルを変換した場合、Excel で複数のシートが表示される様にした Excel を起動した後に元の画面に処理を戻す様に変更
2.3.0.0	2009/12/21	WHERE 条件式ダイアログを追加
2.2.0.0	2009/12/14	出力ファイル名を“テーブル名.csv”に変更 クォーテーション付加チェックボックスを追加 検索条件テーブルを指定した場合は、テーブル選択ダイアログが表示されない様にした CSV 一括変換モードを追加
2.1.1.0	2009/11/25	検索条件追加削除ボタンを追加 ダイレクトモードエクスポートに対応 処理速度を向上させた
2.1.0.0	2009/11/05	GUI 対応 ROWID 型に対応 FLOAT 型に対応 INTERVAL~型、ユーザ定義型の読み飛ばしに対応し、%NOT_SUPPORT%として表示する様にした データベースモードとスキーマモードの制限を外した DDL の CONSTRAINTS 構文に対応 フリー版のデフォルト動作を閲覧プログラム起動後 CSV 削除に変更 文字コード UTF8 の場合に、文字列検索条件が有効とならない場合がある不具合を修正 DLL 版で日本語テーブル名や日本語フォルダ名に”タ”が含まれている場合にエラーが発生する不具合を修正
2.0.0.0	2009/10/13	分割エクスポートファイルに対応 (コマンドライン版のみ) ダンプファイル種別 (EXP, EXPDP) の別やキャラクタセットの自動認識に対応 データベースモード、スキーマモードのエクスポートを対象外とした ライセンスフリー版を追加
1.3.0.0	2009/08/11	DLL 化 NCHAR, NVARCHAR 型に対応 バージョン取得機能を追加 全テーブルプレビュー機能を追加 exp ダンプファイルの DDL 部とデータ部の間の解析結果を反映
1.2.0.0	2009/06/30	expdp (DataPump) モードで XML バッファオーバーエラーが出力され、処理が中断される不具合を修正 expdp (DataPump) モードで 2 番目以降のテーブルが見つからないとエラー出力され、処理が中断される不具合を修正
1.1.0.0	2009/05/01	初回リリース

マニュアル改訂履歴

バージョン	年月日	更新内容
2.9.7.0	2011/08/24	ver 2.9.0.0～2.9.7.0 の更新内容を反映
2.8.2.0	2011/04/10	ver 2.8.0.0～2.8.2.2 の更新内容を反映
2.7.0.0	2010/06/10	ver 2.7.0.0 の更新内容を反映
2.5.0.0	2010/02/14	ver 2.4.1.0 の更新内容を反映
2.4.0.0	2010/02/07	ver 2.4.0.0 の更新内容を反映
2.3.1.0	2010/01/15	ver 2.3.0.9～2.3.1.0 の更新内容を反映
2.0.0.0	2009/12/14	ver 2.0.0.0～2.2.0.0 の更新内容を反映
1.1.0.0	2009/05/01	初版

4. インストールとセットアップ

以下のファイルを任意のフォルダに配置してください。

※ライセンス契約の内容により提供するプログラムの種類は異なります。

※ライセンスキーファイルにはお客様名などの情報を暗号化して保持しています。

○ GUI 版

ARKDumpViewer.exe	プログラム本体（ [フリー版：ARKDumpViewerFree.exe] ）
ARKDumpViewer.chm	ヘルプファイル
ARKDumpViewer.ini	動作条件設定ファイル
ARKDumpViewer.key	ライセンスキーファイル（ [フリー版：キーファイル不要] ） 商品版をキーファイルなしで起動すると機能が制限され、最大出力行数が 50 までとなります。

※ **ARK Dump Viewer** はレジストリの更新を行いません。

○ コマンドライン版

admpviewer.exe	プログラム本体
----------------	---------

5. 概要

5. 1. ARK Dump Viewer の特徴

ARK Dump Viewer は、Oracle のエクスポート(exp)またはデータポンプ(expdp)ユーティリティで出力されたダンプファイルを CSV ファイルに変換し、Excel などのプログラムを起動して内容を参照することのできるツールです。

Oracle データベースや Oracle クライアント環境は不要です。

5. 2. ARK Dump Viewer の主な機能

- ・ ダンプファイルを CSV ファイルに変換し、Excel やメモ帳などのプログラムを起動して表示します。
- ・ カラム名のヘッダ行出力、カラムの前後空白トリム、デリミタ文字、DATE 型書式などを設定可能です。
- ・ WHERE 条件式を設定することにより、レコードを選択することが可能です。
- ・ 出力を INSERT SQL 文の形式にすることが可能です。
- ・ 出力するカラム、出力しないカラムを指定することが可能です。
- ・ CSV ファイルへの変換のみを行うモード、CSV 一括変換モードでは、複数のテーブルに対して WHERE 条件式を設定して CSV ファイルを作成することが可能です。また条件式のみをファイルに登録し、検索条件パターンを切り替えることも可能です。
- ・ ダンプファイルは exp コマンド（エクスポート）形式と expdp（データポンプ）形式に対応しています。
- ・ 以下のデータ型に対応しています。（2010 年 6 月現在）

CHAR, VARCHAR, NUMBER, FLOAT, DATE, TIMESTAMP, BLOB, CLOB, LONG, RAW, LONG RAW, NCHAR, NVARCHAR, ROWID

- ・ 検索条件の指定には以下の演算子を使用可能です。

=, !=, <, <=, >, >=, LIKE, NOT LIKE, IS NULL, IS NOT NULL

- ・ 検索条件式には以下の SQL 関数を使用可能です。（2011 年 4 月現在）

SUBSTR, SUBSTRB, LENGTH, LENGTHB, UPPER, LOWER, LPAD, RPAD, TRIM, LTRIM, RTRIM, INSTR, INSTRB, TO_CHAR, TO_DATE, TO_NUMBER, SYSDATE

- ・ キーワード検索 (GREP) が可能です。
- ・ LIKE 演算子で指定する正規表現は、以下の形式のみをサポートしています。

STRING%	:	前方一致
%STRING%	:	中間一致
%STRING	:	後方一致

- ・ データベースキャラクタセット（文字コード）は、Shift-JIS、EUC、UTF8 に対応しています。
- ・ 動作確認済み Oracle バージョンは以下のとおりです。（2011 年 8 月現在）

Oracle8i
Oracle9i
Oracle10g
Oracle11g

6. GUI 版操作

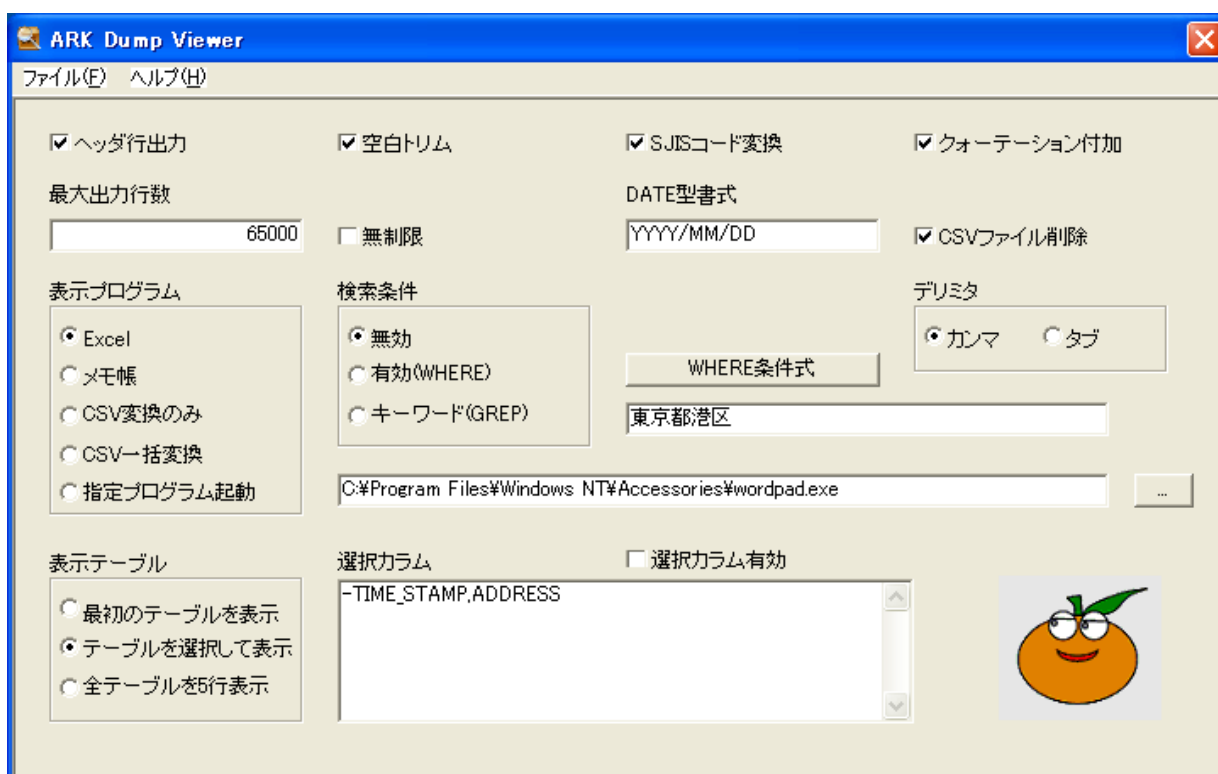
6. 1. 起動

1. ARKDumpViewer.exe をダブルクリックすることでメインウィンドウが表示されます。
2. メニュー「ファイル」－「開く」からダンプファイルを指定します。
3. 指定されている各種のオプションにより、Excel などダンプファイルの内容が参照できます。

アイコン、ウィンドウへのドラッグ&ドロップにより実行することもできます。
この場合は、動作条件設定ファイル「ARKDumpViewer.ini」に保存されている条件で動作します。

※ARK Dump Viewer GUI 版は、二重起動することはできません。

6. 2. メインウィンドウ



○ メニュー

- ・ 「ファイル」－「開く」

ファイル指定ダイアログでダンプファイルを指定します。

- ・ 「ファイル」－「DDL 出力」

ダンプファイルを指定後、DDL 出力先ファイルを指定します。

メモ帳 (notepad.exe) が起動して、ダンプファイルに含まれている以下の DDL 文が表示されます。

エクスポートダンプファイル

CREATE (CREATE TYPE、CREATE FORMAT を除く)、ALTER、GRANT、REVOKE

データポンプダンプファイル CREATE TABLE のみ

- ・ 「ファイル」－「INSERT SQL 出力」
レコードの内容を INSERT SQL 文として出力します。
 - ・ 「ファイル」－「バイナリカラムファイル出力」
BLOB、CLOB、NCLOB 型カラムの内容をファイルに出力します。
 - ・ 「ファイル」－「プロパティ」
ダンプファイルを指定後、ダンプファイルについての情報を表示します。
 - ・ 「ファイル」－「設定保存」
動作条件設定ファイル「ARKDumpViewer.ini」へ、現在設定されている内容を保存します。
 - ・ 「ファイル」－「終了」
プログラムを終了します。
 - ・ 「ヘルプ」－「ヘルプ」
ヘルプを表示します。
 - ・ 「ヘルプ」－「バージョン情報」
バージョン情報、ライセンスユーザ名を表示します。
- ボタン
- ・ 「WHERE 条件式」
WHERE 条件式ダイアログを表示します。
 - ・ 「…」
CSV を表示するために起動するプログラムのパスを、ファイルダイアログで指定します。
- チェックボックス
- ・ ヘッダ行出力
CSV の一行目にカラム名を出力するかどうかを指定します。
 - ・ 空白トリム
CSV のカラム値の前後空白をトリム（削除）するかどうかを指定します。
指定しない場合、CHAR 型の場合後半部に空白が出力される可能性があります。
 - ・ SJIS コード変換
カラム値を Shift-JIS コードに変換するかどうかを指定します。
指定しない場合、ダンプファイル中のキャラクタセット（文字コード）のまま出力を行います。
UTF8 の場合は、CSV ファイルに BOM（Byte Order Mark）を付加します。
 - ・ クォーテーション付加
カラム値の前後にダブルクォーテーションを付加するかどうかを指定します。
指定しておらず、カラム値の文字列に改行コードが含まれていた場合、CSV データが崩れます。

- ・ 無制限（最大出力行数）**【フリー版：選択不可】**

出力行数を無制限にするかどうかを指定します。

- ・ CSV ファイル削除

Excel やメモ帳などを終了した後に、CSV ファイルを削除するかどうかを指定します。
指定しない場合、プログラム終了後もダンプファイルと同じフォルダに CSV ファイルが残ります。

- ・ 選択カラム有効

選択カラムテキストボックスに指定した出力カラム条件を、有効にするかどうかを指定します。

○ ラジオボタン

1. [表示プログラム]

- ・ Excel

Microsoft Excel を起動して CSV ファイルを表示します。ダンプファイル中の複数テーブルを一括表示することが可能です。

Excel がインストールされているかどうかの判定は、レジストリの内容で行っています。

- ・ メモ帳

メモ帳 (notepad.exe) を起動して CSV ファイルを表示します。複数テーブルを表示することはできません。

- ・ CSV 変換のみ **【フリー版：選択不可】**

テーブル選択ダイアログで指定されたテーブル、または WHERE 条件式で指定されたテーブルを CSV ファイルに変換するのみで、表示は行いません。

- ・ CSV 一括変換 **【フリー版：選択不可】**

ダンプファイルに含まれている全てのテーブルを CSV ファイルに変換します。
WHERE 条件式が指定されているテーブルは、条件式が有効となります。表示は行いません。

- ・ 指定プログラム起動 **【フリー版：選択不可】**

CSV ファイルの表示に、ユーザが設定したプログラムを起動します。

2. [表示テーブル]

- ・ 最初のテーブルを表示

ダンプファイル中の最初のテーブルを CSV 変換対象とします。
ダンプファイルに 1 テーブルしか含まれていない場合、テーブル名を抽出するための読み込みを省略することができます。

- ・ テーブルを選択して表示

ダンプファイル中のテーブルから、CSV 変換対象のテーブルを選択するためのダイアログが表示されます。テーブル名を抽出するための読み込みが行われます。

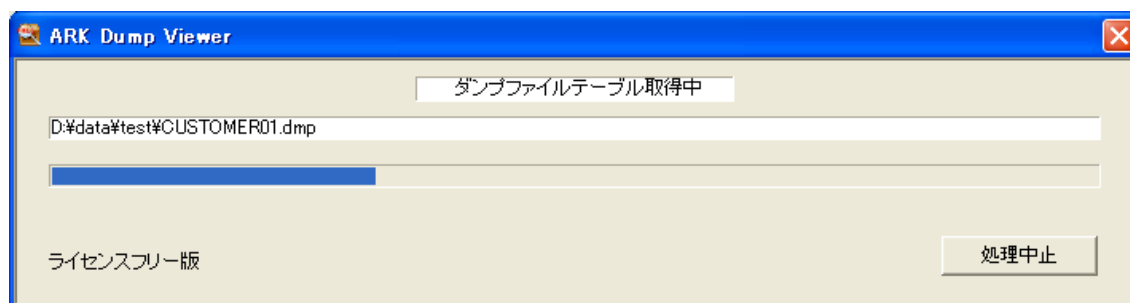
- ・ 全テーブルを 5 行表示

ダンプファイル中の全テーブルを、先頭 5 行ずつだけ CSV 変換を行って表示します。

3. [デリミタ]

- ・ カンマ
CSV のデリミタをカンマにします。
 - ・ タブ
CSV のデリミタをタブコードにします。
4. [検索条件] **[フリー版：選択不可]**
- ・ 無効
検索条件を無効にします。
 - ・ 有効 (WHERE)
登録されている検索条件が有効になります。
 - ・ キーワード (GREP)
キーワード検索を有効にします。
検索対象は CHAR, NCHAR, VARCHAR2, NVARCHAR2 型の文字列です。正規表現は使用できません。
- テキストボックス
- ・ 最大出力行数 **[フリー版：更新不可]**
CSV ファイルの出力行数を制限する場合に指定します。
 - ・ DATE 型書式
DATE 型、TIMESTAMP 型のカラムの出力書式を、SQL 関数 TO_CHAR() の第 2 引数形式で指定します。
 - ・ 起動プログラム
CSV ファイルを表示するために起動するプログラムを指定します。
 - ・ 選択カラム
出力対象のカラムを指定します。
先頭に-（マイナス）を付加することにより、出力対象外のカラムが指定できます。
設定の有効／無効は、選択カラム有効のチェックボックスで指定します。

6. 3. プログレスバーウィンドウ



ダンプファイルの読み込み中にはプログレスバーが表示されます。

「処理中止」ボタン、またはクローズボックスをクリックすることで、処理を中断することができます。

6. 4. テーブル選択ダイアログ



○ リストビュー

テーブル名と件数が表示されます。

パーティション表の場合はパーティションごとの件数が表示されます。

対象テーブルをマウスクリックで選択します。ダブルクリックも有効です。

○ チェックボックス

・ 選択カラム指定

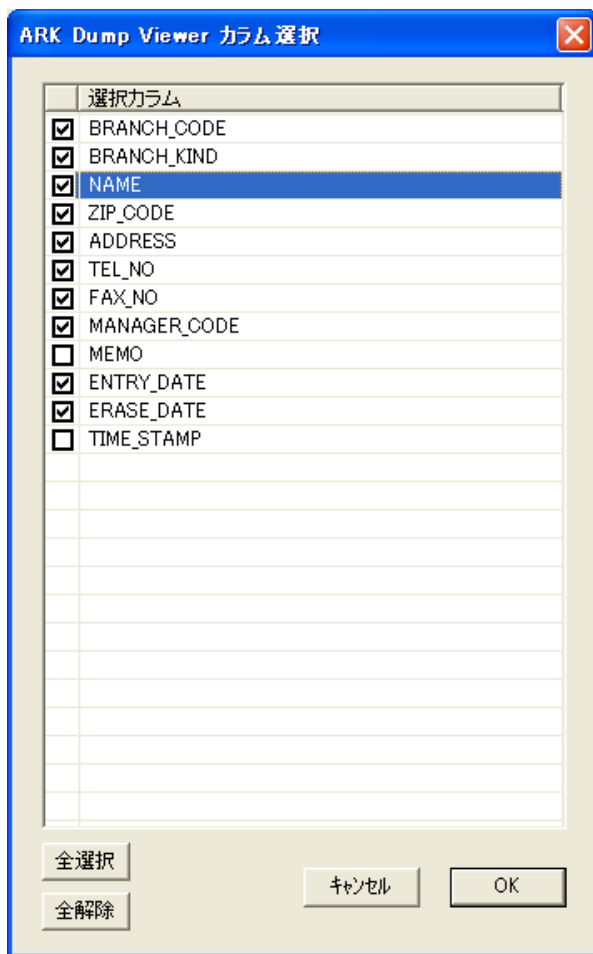
チェックボックスを選択した状態でテーブルを選択すると、続いて出力カラム選択ダイアログが表示されます。

○ テキストボックス

・ テーブル名

テキストボックスに文字を入力することにより、下部のリストに表示されるテーブル名を前方一致で絞ることができます。大文字、小文字の別はありません。

6. 5. 出力カラム選択ダイアログ



○ リストビュー

テーブルのカラムが表示されます。出力対象をチェックボックスで選択します。

○ コマンドボタン

・ 全選択

全てのカラムのチェックボックス選択を行います。

・ 全解除

全てのカラムのチェックボックス解除を行います。

6. 6. WHERE 条件式ダイアログ



○ リストビュー

チェックボックスで指定したテーブル名+WHERE 条件式+選択カラムが CSV 変換に使用されます。ただし、メインウィンドウでも WHERE 条件有効をチェックする必要があります。

条件式を編集する場合、行をクリック選択してコマンドボタン「▽」をクリックします。

WHERE 条件式を指定せず、テーブル名のみを登録している場合は全件出力となります。

同一テーブルに対して、複数の条件式のチェックを行うことはできません。

○ コマンドボタン

- ・ 「△」

下部の編集エリアテキストボックスに入力されている内容が、リストビューに登録されます。

- ・ 「▽」

リストビューで選択されている条件式の内容が、編集エリアテキストボックスに移動します。

- ・ 「…」

ファイルダイアログが表示され、条件式を保存するファイルを変更することができます。

- ・ 「保存」

カレントの条件式の内容を保存します。

保存先は「INI ファイル」テキストボックスで表示されているファイルとなります。

○ テキストボックス

・ INI ファイル

条件式を保存するファイルを指定します。

デフォルトは ARKDumpViewer.ini です。

・ テーブル名編集エリア

テーブル名を新規入力または編集します。

・ WHERE 条件式編集エリア

WHERE 条件式を新規入力または編集します。

WHERE 条件式に指定できる演算子と SQL 関数は、5.2 章を参照してください。

・ 選択カラム編集エリア

出力対象のカラムを編集します。

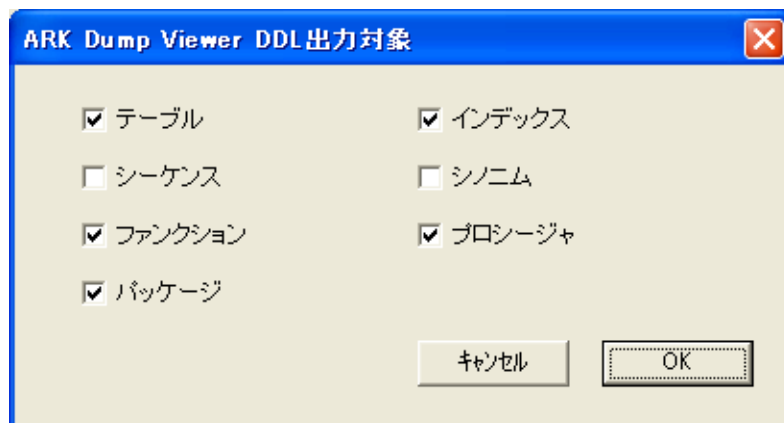
出力対象外のカラムは、先頭に-（マイナス）を付加することにより指定します。

6. 7. プロパティダイアログ



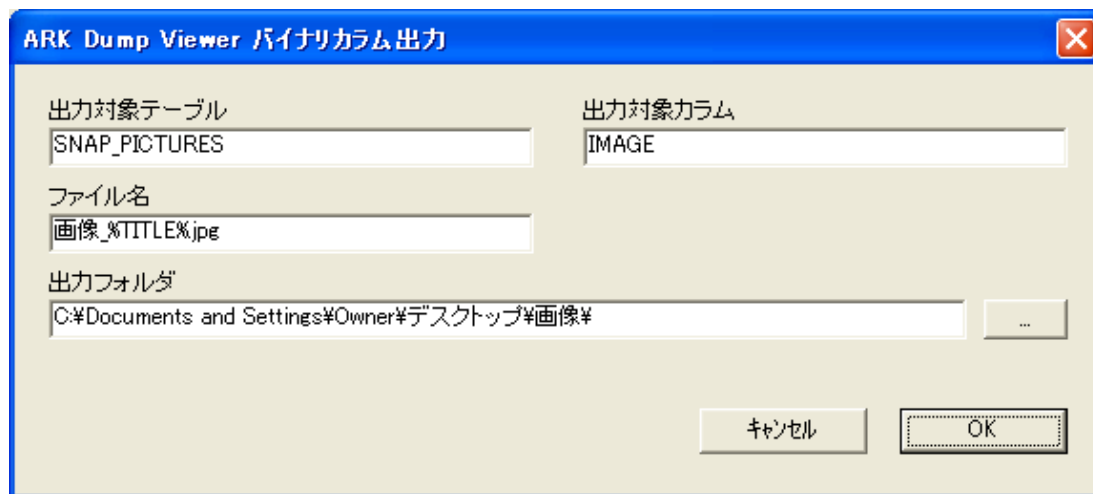
ダンプファイルについての情報を表示します。
表示内容はエクスポートとデータポンプで異なります。

6. 8. DDL 出力対象選択ダイアログ



出力対象のオブジェクトをチェックボックスで選択します。

6. 9. バイナリカラム出力ダイアログ



○ コマンドボタン

- ・ 「…」

ダイアログが表示され、カラムデータを保存するフォルダを変更することができます。

○ テキストボックス

- ・ 出力対象テーブル

出力対象のテーブルを指定します。省略するとカラム名だけが有効となります。

- ・ 出力対象カラム

出力対象のカラムを指定します。

- ・ ファイル名

出力ファイル名を指定します。

%カラム名%の形式で、レコードごとにファイル名を変えることができます。

例) DOC_%PERSON_CODE%. pdf

省略すると第一カラムの値がファイル名となりますが、拡張子は付きません。

カラムがユニークな値とならない場合は、レコードごとに上書きされることに注意が必要です。

- ・ 出力フォルダ

指定したファイルが出力されるフォルダを指定します。

6. 10. SQL 出力ダイアログ



○ ラジオボタン

出力される INSERT 文を使用する DBMS を選択します。

日付型カラムの指定形式が、各 DBMS 用に対応したものとなります。

6. 11. 動作条件設定ファイル

設定した内容は、メニューから「設定保存」を実行することにより、動作条件設定ファイル（ARKDumpViewer.ini）に保存することができます。動作条件設定ファイルのパスは、環境変数 ADV_INIFILE_PATH で設定することもできます。

動作条件設定ファイルはテキスト形式でエディタ等による編集が可能です。

WHERE 条件式は、アスタリスクがついている部分がチェック状態となります。

```
[SAMPLE_TABLE2] []
WHERE=PRODUCT_CODE = '0348'
[SAMPLE_TABLE2] [*]
WHERE=(PRODUCT_CODE = '0355' or PRODUCT_CODE = '0360') and PRICE < 1000
```

7. コマンドライン版操作

コマンドラインプログラム `admpviewer.exe` は任意のディレクトリに配置して使用することができます。
ライセンスキーファイルは不要です。

7. 1. 使用例

- ・ ダンプファイル中の最初のテーブルを画面表示
`>admpviewer file=SAMPLE.dmp`
- ・ ダンプファイル中のテーブル名一覧表示
`>admpviewer file=SAMPLE.dmp list=y`
- ・ テーブルを指定して出力
`>admpviewer file=SAMPLE.dmp table=EMPLOYEE`
- ・ ダンプファイル中のテーブル定義を表示
`>admpviewer file=SAMPLE.dmp table=EMPLOYEE list=y`
- ・ ダンプファイル中の全テーブルを 5 行ずつ表示
`>admpviewer file=SAMPLE.dmp preview=y`
- ・ 検索条件を指定して出力
`>admpviewer file=SAMPLE.dmp WHERE=([BRANCH]ADDRESS like '横浜%', [SUPPLIER]ADDRESS like '埼玉県%')`
- ・ “検索条件.ini”ファイルに記述した WHERE 条件式で CSV 一括変換を実行
`>admpviewer file=SAMPLE.dmp mode=CSV_BATCH parfile=検索条件.ini`
- ・ ダンプファイル中のバイナリカラムをファイルに出力
`>admpviewer file=PICTURES.dmp LOB_TARGET=IMAGE LOB_FILE=IMAGE_%TITLE%.jpg`
- ・ ダンプファイル中のファンクションとパッケージの DDL 文を出力
`>admpviewer file=SAMPLE.DMP mode=DDL DDL="FUNCTION|PACKAGE"`

7. 2. 引数

引数のコマンド部に大文字小文字の違いはありません。

- ・ HELP

HELP メッセージを表示します。

例)
HELP=Y

- ・ FILE

変換対象のダンプファイルを指定します。

例)
FILE=SAMPLE.dmp

分割エクスポートされた複数のファイルは以下の様に指定してください。

例)
FILE=(CUSTOMER01.dmp, CUSTOMER02.dmp, CUSTOMER03.dmp)

- ・ TABLE **【フリー版：選択不可】**

対象テーブルを指定します。

例)
TABLE=EMPLOYEE

- ・ LIST

テーブル一覧、テーブル定義を参照する際に指定します。

例)
LIST=Y

- ・ HEADER

CSV 出力にヘッダ行（カラム名）を出力するかどうかを指定します。
デフォルトは“N”です。

例)
HEADER=Y

- ・ OUT_FILE

出力ファイル名を指定します。
デフォルトは標準出力です。

例)
OUT_FILE=SAMPLE.csv

- ・ OUT_CHARSET

出力文字コードを指定します。SJIS, EUC, UTF8 が指定できます。
デフォルトは WINDOWS の場合は SJIS、その他 OS の場合はコンパイル時の指定によります。

- ・ DELIMITER

CSV デリミタを指定します。COMMA (カンマ)、TAB (タブ)、SPACE (空白) が選択できます。
デフォルトはカンマ“, ”です。
カラムにデリミタと同じ文字が含まれる場合は前後にダブルクォーテーションが付与されます。

例)
DELIMITER=TAB

- ・ PARFILE

引数をファイルから読みます。

例)
PARFILE=arg.txt

- ・ TRIM

CHAR 型カラムの後半部など、文字列前後の空白をトリムするかどうかを指定します。
デフォルトは“N”です。

例)
TRIM=Y

- ・ MAX_RECORD

最大出力件数を指定します。

例)
MAX_RECORD=1000

- ・ QUOTE

ダブルクォーテーションを付与するかどうかを指定します。
デフォルトは“N”です。
ただし、ダブルクォーテーション、デリミタ、改行を含む文字列データはダブルクォーテーションを付与します。

例)
QUOTE=Y

- ・ DATE_FORMAT

日付型の出力書式を SQL 関数の形式でダブルクォーテーションで囲み指定します。
デフォルトは“YYYY/MM/DD HH24:MI:SS”です。

例)
DATE_FORMAT=“YYYYMMDD”

- ・ BOM

ダンプファイルのキャラクタセットが UTF8 であった場合、冒頭に BOM（バイトオーダーマーク）を出力するかどうかを指定します。
デフォルトは“N”です。

例)
BOM=Y

- ・ PREVIEW **【フリー版：選択不可】**

ダンプファイル中の全テーブルを 5 行ずつ参照する際に指定します。
テーブル名は【XXXXXX】の形式で出力されます。

例)
PREVIEW=Y

- ・ PROPERTY

ダンプファイルの Oracle バージョンやユーザ名、キャラクタセットなどを参照する際に指定します。

例)
PROPERTY=Y

- ・ MODE

全テーブルの一括出力モード、DDL 文出力モードへ機能を切り替えます。
CSV、CSV_BATCH（一括変換）、DLL が選択できます、デフォルトは CSV です。
一括変換を指定した場合、ファイル名は“テーブル名.csv”となります。

例)
MODE=CSV_BATCH

- ・ DDL

DDL 文出力モードで、抽出対象のオブジェクトを指定します。
TABLE（テーブル）、INDEX（インデックス）、SEQUENCE（シーケンス）SYNONYM（シノニム）、PROCEDURE（プロシージャ）、FUNCTION（ファンクション）、PACKAGE（パッケージ）、を“|”で連結して指定します。
デフォルトは ALL（全オブジェクト出力）です。

例)
DDL=PROCEDURE|FUNCTION|PACKAGE

- ・ RAW_FORMAT

RAW 型の出力形式を指定します。以下の形式を指定できます。

HEX : 16 進数
ASCII : 文字
IGNORE : 出力しない

例)
RAW_FORMAT=ASCII

- ・ RAW_LENGTH

RAW 型カラムの最大出力長をバイト数で指定します。
デフォルトは 20 です。

例)
RAW_LENGTH=32

- ・ LOB_TARGET

ファイル出力を行う LOB 型カラムをテーブル名. カラム名の形式で指定します。
テーブル名は省略することができます。

例)
LOB_TARGET=PICTURES. IMAGE

- ・ LOB_FILE

LOB 型カラムをファイル出力する際のファイル名を指定します。

%カラム名%の形式で、レコードごとにファイル名を変えることができます。

例)
DOC_%PERSON_CODE%. pdf

省略すると第一カラムの値がファイル名となりますが、拡張子は付きません。
カラムがユニークな値とならない場合は、レコードごとに上書きされることに注意が必要です。

- ・ LOB_DIR

LOB 型カラムをファイル出力する際のファイル名を指定します。

例)
LOB_DIR= "D:¥IMAGES"

- ・ ERRLOG

エラーログファイルを指定します。デフォルトは標準エラー出力です。
エラーが発生しない限りログは出力されません。

例)
ERRLOG=error. log

- ・ WHERE

WHERE 条件式を設定します。テーブルごとに以下の書式で複数の設定ができます。

WHERE=" [テーブル名]条件式, ..."

例)

WHERE=" [BRANCH]ADDRESS like ' 横浜%', [SUPPLIER]ADDRESS like ' 埼玉県%' "

※ UNIX/Linux 版の場合は、検索条件全体をダブルクォーテーションで囲みます。

例)

WHERE=" [BRANCH]ADDRESS like ' 横浜%' "

- ・ GREP **【フリー版：選択不可】**

検索文字列を指定します。検索はダンプファイル中の全テーブルに対して行われ、テーブル名は【】で囲んで出力します。

- ・ COLUMN **【フリー版：選択不可】**

出力対象カラムを指定します。必ず引数 WHERE の後に対で指定してください。先頭に-（マイナス）を付加することにより、対象外のカラムが指定できます。

例)

COLUMN=NAME, ADDRESS, -TIME_STAMP

8. トラブルシューティング

以下にトラブル事例について説明いたします。

エラーメッセージとその対処については 12.1 章を参照してください。

- ・ ARK Dump Viewer が起動しない
既に起動しており、Excel など参照中の可能性があります。
ARK Dump Viewer は 2 重起動を抑止しています。
ARK Dump Viewer から起動されている Excel を終了させ、再度起動してください。
- ・ CSV レコードが出力されない
WHERE 条件式が有効となっており、読み込んだダンプファイルには条件に一致したテーブルやレコードが存在しなかった可能性があります。
- ・ レコードの順番がおかしい
ダンプファイル中のレコード順と、データベース中の論理レコード順が一致するとは限りません。
主キー順やレコード作成順とはならない可能性の方が高いです。
- ・ 処理時間がかかる
ダンプファイルの内部はバイナリの可変長形式であり、大容量のファイルは読み込みに時間がかかってしまうことをご承知ください。
- ・ CSV 表示内容が、列の途中で折り返されている
カラム値に改行コードが混入している場合に起こります。
この場合、ダブルクォーテーションが前後に付加されており、Excel では表示することができます。
- ・ Excel で「ファイル全体を読み込むことができませんでした。」のエラーが表示される。
行数や列数が Excel の制限値を超えている場合に発生します。(Excel 2003 までのバージョンなど)
出力されている CSV ファイルをテキストエディタなど他の手段で確認してください。
- ・ その他
フリー版をご利用のお客様でも、不具合情報はぜひ弊社までご連絡いただきたいと思います。
ご承知の様にダンプファイルの書式は公開されておりませんので、未解析のデータパターンが存在する可能性があります。
調査にご協力いただいた場合、弊社製品を優待価格にてご案内させていただいております。

9. make 編

ARK Dump Viewer は C 言語で記述されています。

WINDOWS 版、UNIX 版ともコマンドライン上で makefile を使用して make を行います。

9. 1. WINDOWS 版

make には、Microsoft 社製 VisualStudio の C コンパイラが必要です。

無償で入手可能な Express edition で make が可能です。

また、MinGW でもコンパイルすることができます。

makefile は GUI 版 : makefile.ex、DLL 版 : makefile.dl、コマンドライン版 : makefile.command の 3 種類があります。

1. makefile の以下の部分を環境に合わせて変更してください。

```
VC_HOME="C:¥Program Files¥Microsoft Visual Studio 8"  
SDK_HOME="C:¥Program Files¥Microsoft Platform SDK"  
  
SRC_DIR=D:¥ARKTRAN¥src¥
```

2. DOS プロンプトで VisualStudio の cl コマンドを実行するための環境変数の設定を行ってください。

例)

"C:¥Program Files¥Microsoft Visual Studio 8¥VC¥bin¥VCVARS32.BAT" を実行

3. DOS プロンプトで各 makefile 名を引数に nmake コマンドを実行してください。

例)

> nmake -f makefile.command

4. 各 makefile に応じて以下のプログラムが作成されます。

GUI 版 : makefile.ex	ARKDumpViewer.exe
コマンドライン版 : makefile.command	admpviewer.exe

9. 2. UNIX/Linux 版

make には C コンパイラが必要です。無償で入手可能な gcc で make が可能です。

文字コード変換のための iconv ライブラリが必要です。ただし Linux では、makefile 中にライブラリ指定オプション -liconv が不要な場合もあります。

1. ソースファイルをサーバに転送する際に、OS の文字コードに合わせて文字コードの変換を行ってください。

例)

Linux UTF8 の場合は UTF8 に変換を行います。

2. makefile の以下の部分を環境に合わせて変更してください。

```
CHAR_CODE=UTF8
```

```
CC=gcc
```

変数 CHAR_CODE には OS とソースファイルの文字コードを指定します。

値は SJIS, EUC, UTF8 から選択します。

変数 CC には C コンパイラのコマンドを指定します。

3. コマンドラインプロンプトで makefile 名を引数に make コマンドを実行してください。

例)

```
> make -f makefile.unix
```

4. 以下のプログラムが作成されます。

コマンドライン版 : admpviewer

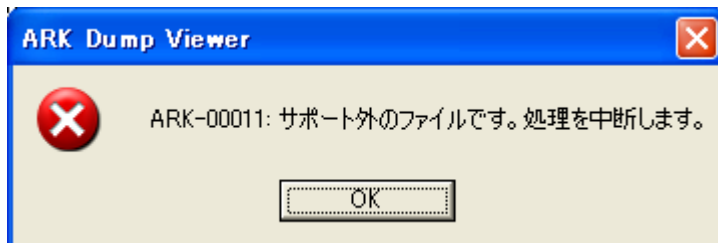
10. アンインストール

GUI 版、DLL 版、コマンドライン版ともプログラムを削除するだけでアンインストールは完了します。

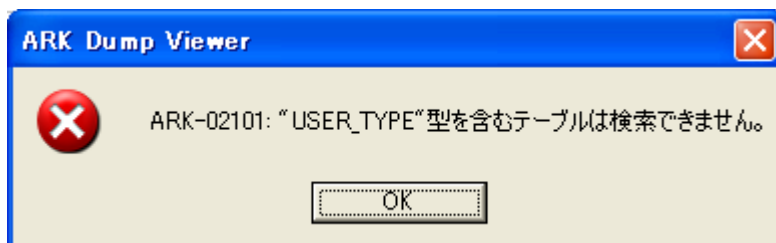
ARK Dump Viewer はレジストリを使用しておらず、WINDOWS の「プログラムの追加と削除」には対応していません。

1 1. 附録

1 1. 1. エラーメッセージ



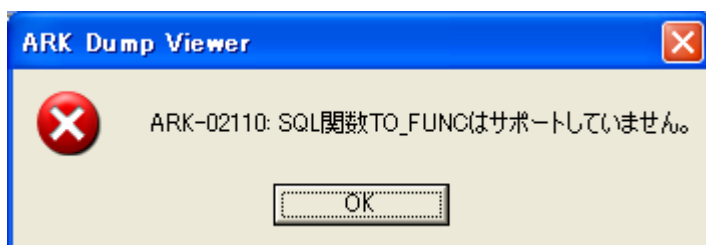
exp/expdp コマンドで出力された Oracle のダンプファイルではない場合に表示されます。



ダンプファイルにサポートしていないデータ型が含まれています。



検索条件に指定したカラムがダンプファイルに存在しません。
テーブル定義や検索条件を見直してください。



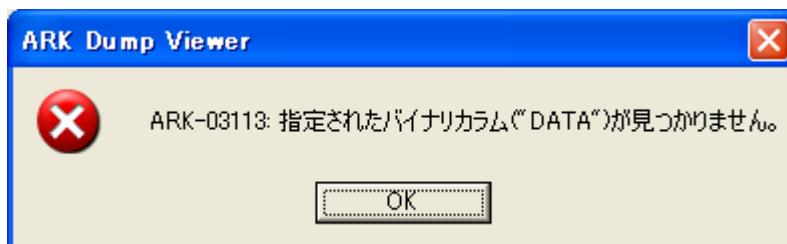
検索条件に指定した SQL 関数はサポート対象外です。
検索条件を見直してください。



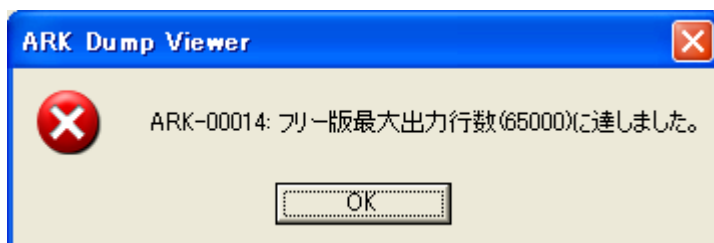
検索条件に指定した SQL 関数の引数が不正です。
検索条件を見直してください。



出力 CSV ファイルがオープンできませんでした。
既に他のアプリケーションでオープンされている可能性があります。



指定されたバイナリカラムがファイル出力できませんでした。
検索条件で出力対象が見つからなかった場合も表示されます。
カラム名や検索条件を見直してください。

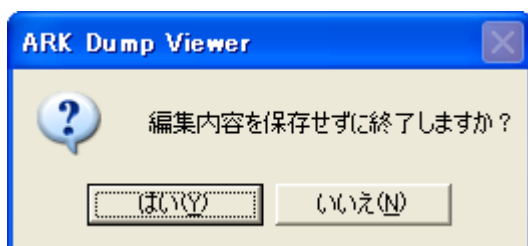


フリー版で最大出力行数に達した場合出力されます。

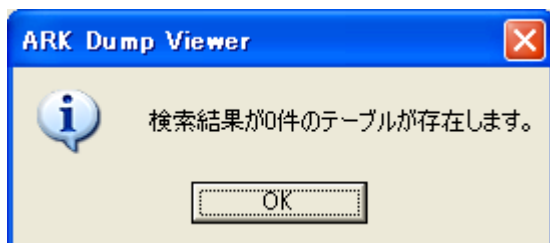
1 1. 2. ワーニングメッセージ



WHERE 条件式ダイアログで、同一テーブルに対して複数チェックを行い「OK」をクリックした場合に出力されます。同一テーブルに複数の条件を設定することはできません。



WHERE 条件ダイアログで編集を行った後、「保存」を実行せずに「OK」または「キャンセル」をクリックした場合に表示されます。

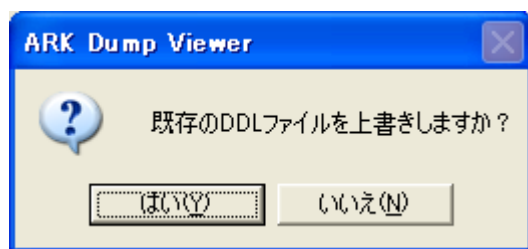


WHERE 条件を指定して変換を行い、検索結果が0件であるテーブルが存在していた場合に表示されます。



ダンプファイル読み込み中に「処理中止」をクリックした場合に表示されます。

「はい」を選択すると ARK Dump Viewer が終了します。



ARK Dump Viewer マニュアル

2011 年 8 月 24 日 改定

アークトラン株式会社日本支社
〒108-6028
東京都港区港南 2-15-1 品川インターシティ A 棟 28 階

ARKTRAN, INC. FLORAL DIVISION
3655 Torrance Blvd. Suite 250 Torrance
California 90503 USA

サポート

ARK Dump Viewer に関するお問い合わせは、弊社 Web サイトをご利用ください。

<http://www.arktran.com>